

국무총리령 제 3 호

(70-2011)

1977. 3. 16.

수신: 수신처 참조

제목: 수도권 인구 재배치 기본 계획 시행에 관한 지시

1977. 3. 7 정부 방침으로 확정된 바 있는 별첨 '수도권 인구 재배치 기본 계획'을 송부 하니, 관계 행정기관은 다음 요령에 유의하여 시행에 만전을 기하기 바랍니다.

다

음

1. 관계 행정기관은 본 기본 계획중 소관사항의 효과적인 시행을 위하여, 당면시책과 중장기 계획의 세부 시행계획을 조속히 수립 할 것.
2. 세부 시행계획을 수립함에 있어서는 구체적인 실정을 충분히 감안하고, 소요 예산의 판단, 시행의 시기 및 시책대상 등 필요한 사항을 빠짐없이 고려 할 것.
3. 관계 행정기관이 수립한 세부 시행계획은 77. 4. 30까지 제1 무임소장관실을 경유하여, 수도권 문제 심의위원회(위원장 : 국무총리)에 회부하고, 심의 조정을 받은 후 시행 할 것.
4. 관계 행정기관은 금후 수도권 인구 재배치와 관련된 시책은 반드시 제1 무임소장관실을 경유, 수도권 문제 심의위원회의 심의 조정을 받도록 하고, 본 기본 계획에서 제시하고 있는 방침을 무리하게 확대 적용하거나 방침에 위배되는 계획을

반드시 검토하여 의견을 개진하는 일이 있도록 할 것.

5. 관계 행정기관은 본 기본계획의 시행을 위한 관계법령의 제정 또는 개정을 77. 12. 31까지 소관 행정기관별로 완료토록 하되, 우선순위를 가려 시일이 급한 사항부터 추진하고, 법령(안)은 사전에 제1무임소장관실 경유, 수도권 문제 심의위원회에 회부하여 심의를 받을 것.

6. 기타 사항

- 가. 본 기본계획의 강력한 추진을 위하여, 제1 무임소장관실은 수도권 문제 심의위원회 규정의 개정을 추진 할 것.
- 나. 수도권 인구소산의 촉진을 위하여, 각 중앙 행정기관의 장은, 그 권한 중 주요정책 및 기획에 관련된 사항 이외의 데민관계에 관련된 사항은 실질적으로 데폭 하부기관에 이양되도록 본 기본계획과 함께 추진 할 것.
- 다. 본 기본 계획의 효과적인 시행을 위한 관계 행정기관의 의견이 있으면, 세부 시행계획의 제출시에 함께 제출 할 것.

(유첨) 수도권 인구 재배치 기본 계획 1부. 끝.

국 무 총 리

수신처: 가(3, 10 - 37, 39 - 46) 나(1)

# 首都圈人口再配置基本計劃

1977. 3. 7

33 10 21

## 目 次

I. 長期展望과 基本目標	3
1. 長期展望	3
2. 基本目標	4
II. 計劃의 基本方向	9
1. 基本方向	9
2. 首都圈 範圍의 確定	10
III. 當面施策	12
1. 막는 施策..... 首都圈	13
2. 내보내는 施策..... 首都圈	17
3. 끌고 끌어두는 施策..... 南部地域	21
4. 計劃推進을 위한 準備措置	24
IV. 部門別 中 長期計劃	25



1. 서울産業施設의 移轉	26
2. 南部地域人口收容與件의 造成	28
3. 無許可建物の 整理	32
4. 首都圈의 整備	33
5. 教育制度의 改善	34
V. 計劃施行 保障을 위한 措置	37
1. 稅制 金融上の 措置	37
2. 基金의 設置運用	42
3. 關係法律의 制定 및 改正	43

# I 長期展望と基本目標

## 1. 長期展望

人口と都市圏域別 分布展望

(単位: 千人)

区 分	1965年		1975年		1986年		1996年		75-86 増減人口
	人口数	%	人口数	%	人口数	%	人口数	%	
総人口	28,327	100	35,281	100	42,030	100	48,201	100	6,749
都 市	9,272	32.7	16,794	47.6	26,170	62.3	36,109	74.9	9,376
農 村	19,055	67.3	18,487	52.4	15,860	37.7	12,092	25.1	-2,627
首都圏 (4 市 域)	4,150	14.6	8,539	24.2	13,656	32.5	19,153	39.7	5,117
参 山	1,420	5.0	2,454	7.0	4,522	10.7	6,690	13.9	2,068
大 邱	811	2.9	1,311	3.7	1,917	4.6	2,256	4.7	606
光 州	366	1.3	607	1.7	884	2.1	1,174	2.4	277
全州・潭陽・蔚山	399	1.4	583	1.7	827	2.0	1,072	2.2	244
大 田	307	1.1	507	1.4	766	1.8	1,042	2.2	259
馬山・昌原	159	0.5	372	1.0	627	1.5	904	1.9	255
其他都市	1,660	5.9	2,421	6.9	2,971	7.1	3,818	7.9	552

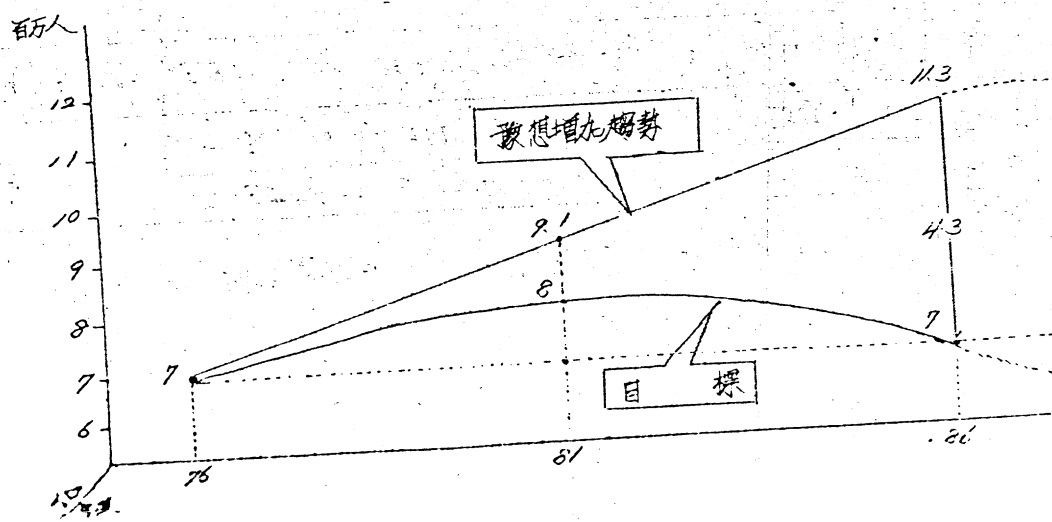
# 1. 經濟發展에 따른 工業用地의 新規需要展望 (71~86)

(單位: 萬坪)

工業의 類型	新規需要	主 要 業 種
都市型 工業	2080	機械金屬, 家具, 纖維類 印刷, 皮革, 出版
臨海型 工業	4737	石油化學, 鉄鋼, 窯業 窯業, 造船, 木材
計	6,817	

## 2. 基本目標

### 가. 서울의 人口目標 (目標年度: 86年)



4. 再配置 目標

(1) 再配置地域 選定時 考慮事項

- 財源의 制約과 人口流入效果의 迅速化
- 國民經濟全體의 成長과 地域的인 均衡發展의 同時的 解決
- 産業構造의 高度化에 따른 開發戰略의 變化
- 都市化의 必然性과 都市性格의 變化

(2) 再配置 地域의 要件

- 서울에 對抗 할 수 있는 人口吸引力을 갖는 都市일 것.
  - 人口 50 萬 以上
  - 大學, 綜合病院, 上下水道, 交通網等 都市施設具備
- 近隣地域의 中核的 拠点機能을 가질 것.
  - 서울로 부터 距離 100 Km 以上
  - 各種 行政서비스 機能
- 工業化의 基本條件을 具備 할 것.
  - 交通, 通信施設, 工業用水 等

(3) 地域別 再配置目標

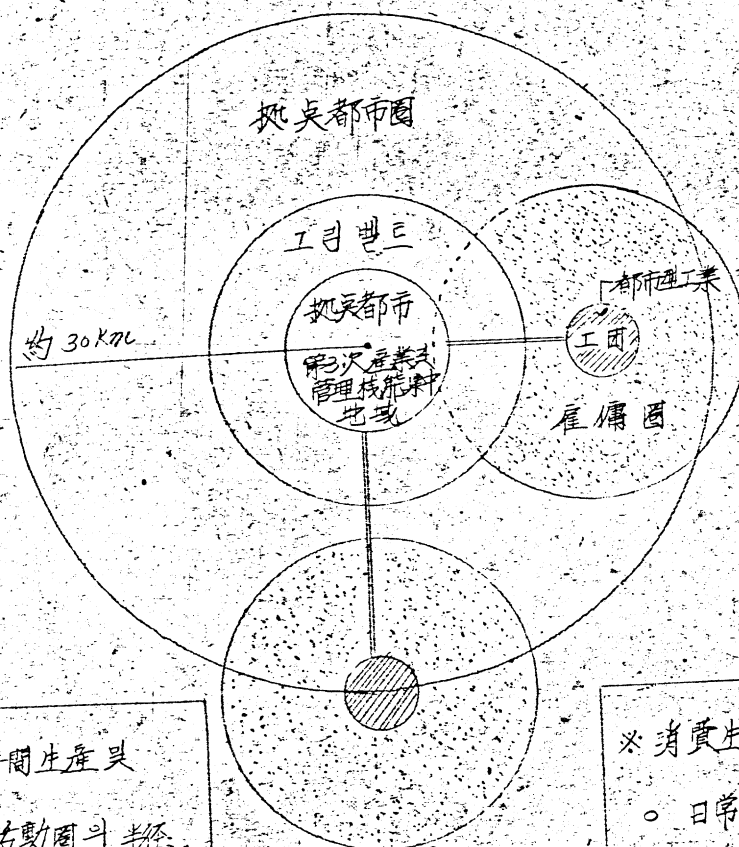
再配置地域	目標人口 (千人)	主 要 對 象
行政首都	500	行政與企業の中樞管理階層
半	200	中小企業移転に伴う附帶人口
5大地域 拠点都市圏	2,600	都市型工業を中心として 製造業雇傭人口
重化學 院園地 其他	1,000	高等技術人力
計	4,300	

※ 再配置地域 選定理由

地 域	選 定 理 由
5 大 拠 点 都 市 圏	<p>1 既存都市與件 活用可能</p> <p>2 雇傭社会 多様化 容易 因 全家族 移動誘導</p> <p>3 購買力、市場性、労働力豊富</p> <p>4 迅速な人口流入 效果期待</p>
院 園 地 其 他	<p>1 既存重化學工業園地等 基礎として 發展可能 —— 産業の系列化容易</p> <p>2 長期的 人口流入效果 期待</p>

都市圈	大邱圈 (龜尾 慶山) 馬山圈 (昌原)	迅速な人口流入 效果 期待
関連圈地其他	重化学基地 関連 圈地 (釜山, 温山等) 其他 既存圈地	1. 既存重化学工業圈地号 基盤より 発展可能 — 産業的 系列化 容易 2. 長期的 人口流入效果 期待

## ※ 據英都市の都市圈形成と産業配置方法

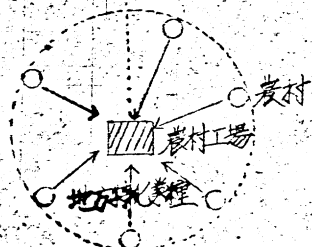


※ 時間生産與  
業務活動圈の半径

- 工業活動
  - 自動車 - 20km
  - 地下鉄電鉄 - 40km
- 公務員自由活動  
(自動車) - 30km

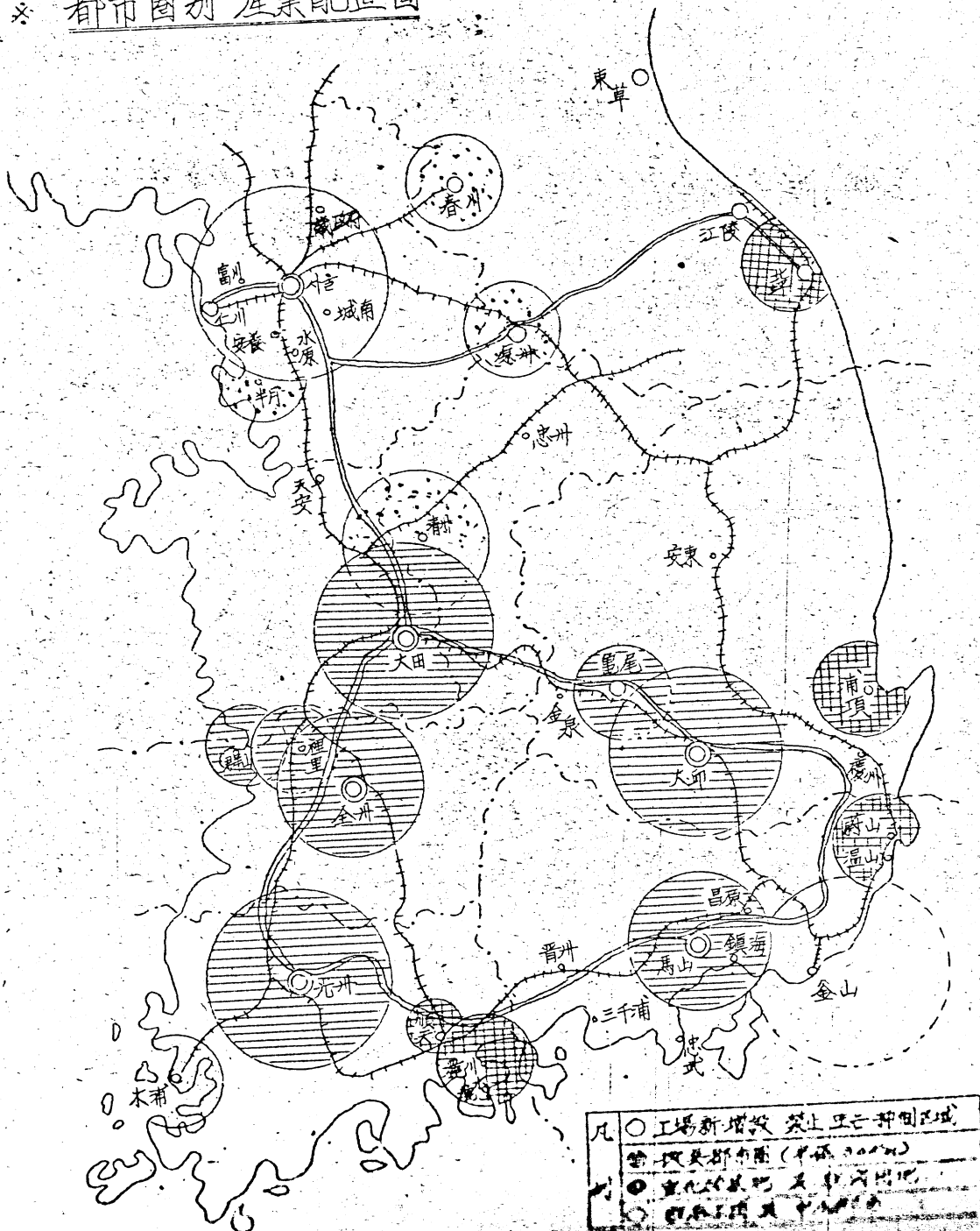
※ 消費生活圈の半径

- 日常消費行動
  - 10km
- 週末消費行動
  - 30km

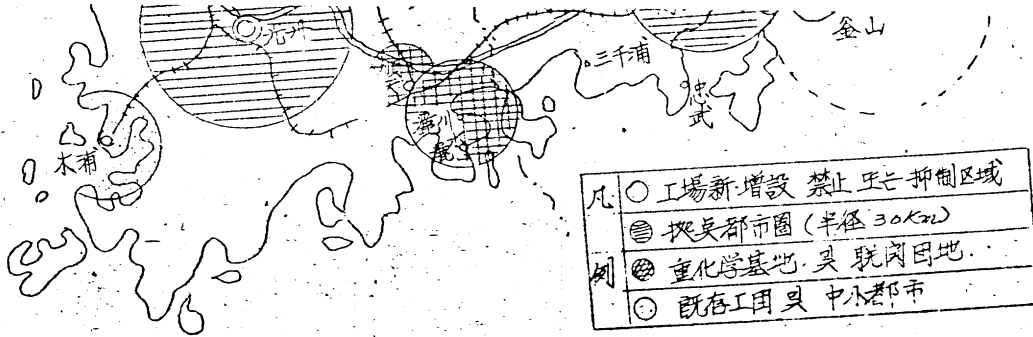




# ※ 都市圈別 産業配置圖







## II 計劃의 基本方向

### 1. 基本方向

가. 巨視的 立場에서의 綜合計劃 樹立 推進으로

政府施策의 統一性 維持

나. 疎散과 收容與件 造成의 併行

다. 都市의 基幹機能의 分散에 다른 依存機能의

從屬的 疎散 誘導

라. 計劃施行을 保障하는 確固한 制度的 裝置과

이 計劃에 다른 關係部처의 業務執行을 統括

調整할 수 있는 機能의 補強

## 2. 首都圈範圍의 確定

### 가. 首都圈의 範圍

이 計劃에서 首都圈이라 함은

(1) 서울特別市

(2) 「國土綜合開發 計劃」上 首都圈開發制限區域

外廓線 内部의 全地域

(3) (2)의 外廓線에 걸치는 市·邑·面

다만, 半月工業都市 豫定地域은 除外

— 京畿道議政府市 → 廣州面 → 水原市 → 仁川市

→ 元堂面 등地의 外廓을 連結하는 7個市

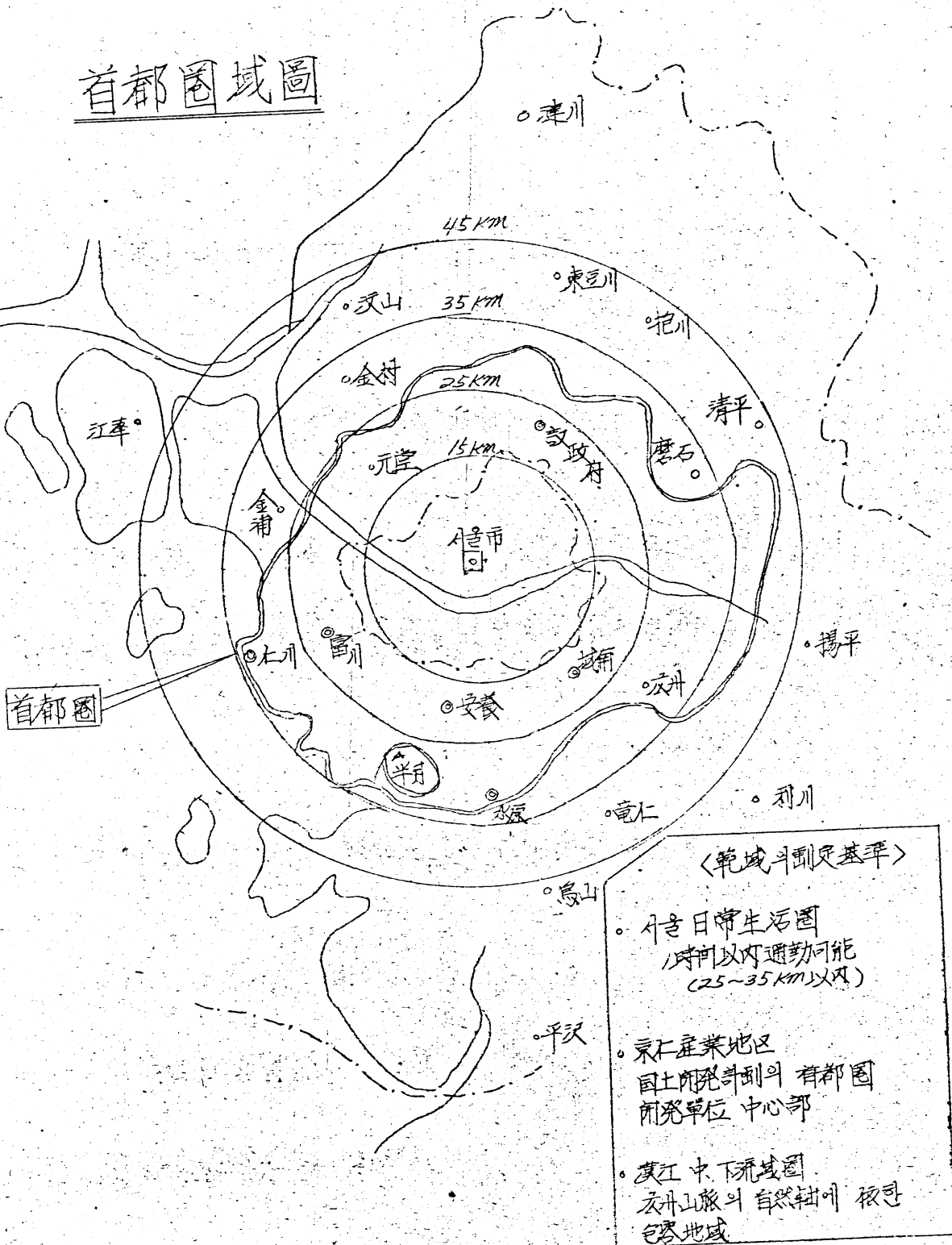
8個郡의 35個邑面 —

### 나. 疎散政策에 따른 區分

江北 : 積極的 疎散地域

江南 : 美化的 疎散地域

# 首都圏域圖



### Ⅲ 當面施策 (77年)

[過度한 豫算과 人力의 新規 所要額이]

[77年中에 施行에 옮길수 있는 施策]

— 人口收容力의 無秩序한 擴大의 防止를 위하여

서울에서 于先 取해야 할 措置 — 막는 施策

— 疎散對象施設과 人口를 내보내기 위하여 서울에

서 于先 取하여야 할 措置 — 내보내는 施策

— 내보내는 施設 및 人口와 모여드는 人口를 地方

에서 받고 묶어두기 위하여 于先 取해야 할

措置 — 받고 묶어두는 施策

— 法令의 整備 등 制度的 裝置와 中. 長期 施策

의 樹立 推進을 위한 準備措置

— 法令의 整備 등 制度的 改進黨 —

의 樹立 推進을 위한 準備措置

## 1. 主要施策 — 首都圈

### 가. 工場 新·增設 規制

○ 首都圈에서 工場의 新設은 禁止

┌ 工業地域 — 增設만 許可  
└ 非工業地域 — 增設도 禁止하고 疎散

※ 서울의 用途地域別 工場占有面積과 工場數

(單位: 萬坪)

區 分	工業地域	非工業地域	計
江 北	56 (464)	113 (3245)	169 (3709)
江 南	196 (1401)	79 (878)	275 (2279)
計	252 (1865)	192 (4123)	444 (5988)

※ ( ) 內는 工場數

### 나. 土地利用 規制

(1) 工業地域 縮少

— 現工業地域을 非工業地域화하고 疎散

<縮少對象地域>

┌ 江北: 全域 (聖永洞, 舍洞, 政府, 陶農, 八堂)  
└ 江南: 서울과 安養川邊 工場이 많은 地域

(2) 아파트地区의 縮小

— 漢江邊 및 金浦地区外 廢止

(3) 綠地地域의 擴大

◦ 서울의 外廓 및 高地帶

◦ 首都圈內 其他都市의 周邊

(4) 都市空間 擴大 — 新開發地 包含 —

◦ 公園、綠地帶、廣場、道路 및 停車場等을 補充

◦ 史蹟地 文化財 周邊을 保存地区로 指定

(5) 開發行爲 抑制

— 新規 住宅地造成 및 土地形質 變更

— 林木의 伐採及 土石의 採取

— 地目의 變更及 農地, 林野의 用途變更

## 斗 建築 規制

### (1) 建築許可時의 用地選別

。 綠地地域, 農耕地, 高地帶, 急傾斜地 및 浸水  
地域에서의 建築 禁止

。 上, 下水道, 道路等 都市基盤施設 不備地域  
建築 禁止

### (2) 서울 江北地域에서의 特殊營業用 建物の 新 増築 禁止

— 都立市場, 百貨店, 터미널, 學館, 劇場等

### (3) 서울 江北地域의 建築率 및 容積率 引下 — 地域別 機能에 따라 差等制 實施

### (4) 政府庁舎, 國營企業體 社屋의 서울市內 新, 增 築 暫定 禁止

— 移転計劃의 強力推進에 對稱



4. 江北都心機能 新・増設抑制의 江南勸奨

○ 江南業務地區 拡大

○ 教育、医療、娯樂、体育、流通施設

○ 衛生業所 江北：新・増設禁止  
江南：江北에서의 移転을 許容

4 住宅公社의 住宅建設事業의 抑制

○ 江南에서의 庶民住宅과 工場跡地買入에 따른

低密度、住宅建設에 許容

4 教育機關의 擴張 抑制

(1) 江北地域 ; 高校의 新設禁止

(2) 大學(校)의 新設 增員禁止

—— 77年度 定員基準으로 固定 ——

但, 地方分枝 設立에 따른 增員許容

4 地方學生의 서울轉入 抑制

[ 中・高校生 ; 繼續抑制  
大學生 ; 轉入規制

4. 地方學生의 入學 抑制

- 中·高校生; 繼續抑制
- 大學生; 編入規制

## 2. 市 邑 村 施策 — 首都圈

가. 撤去民 現況把握

○ 現居住者의 實態調査 (外-三化)

- 調査內容
  - 經濟活動 狀況
  - 住宅 現況
  - 移住에 對한 反應
  - 其他 必要한 事項

나. 無許可建物의 使用制限 措置

(1) 使用權을 現居住者에 限定

- 承繼入住 禁止
- 賣買 禁止
- 賃入 禁止

(2) 使用權制限에 對한 住民登錄上의 特例設定

## 斗 無許可建物の 団地 吳 整理

(1) 団地区域別 連帶責任制 繼續実施

(2) 無許可建物 密集地域を 撤去 緑化区域 斗 存置

改良区域 으로 區分 確定 発表

(撤去区域 斗 公園 斗 緑地 地域 으로 都市昇副

決定)

(3) 撤去緑化区域 拡大

(4) 撤去区域を 標高 70m 以上の 高地帯 吳 河川

辺 으로 決定 (従来 80m ~ 100m 線)

(4) 重要 幹線可視圏 吳 軍事施設 등 特殊施設区域

은 70m 線 以下 外지도 撤去 區域化

(4) 優先 撤去對象區域 確定

。 重要 幹線道路 辺 可視圏

。 主要施設 周辺

。重要 幹線道路沿 可伐區

。主要施設 周辺

(5) 對象地別 撤去時期 豫告; 最少 6個月前

(6) 撤去 補償方法 改善

(가) 建物主에 대한 撤去補償金 支給撤廢

但, 自進撤去時 獎勵金 (10萬圓/棟) 支給

(나) 居住 世帶當 移住補助金 (20萬圓) 支給

主는 江南地域 아파트 入住權 賦與

(다) 首都圈外 移住 定着金 別途補助

(撤去後 3月內 移住 하여 一定期間 以上 定着한

世帶當 30萬圓)

但, 「78年外지 移住한 者에 限하여 適用

「79年以後는 中·長期 計劃으로 代替

(7) 江北에의 移住定着은 止揚

#### 4. 既存工場의 一斉登錄

(1) 移転計劃書 및 業體現況 一斉提出

(2) 業種別 規模別로 分類 外-드化  
— 移転을 위한 資料로 活用

#### 4. 移転對象業체 및 移転時期의 決定

(1) 移転對象業체의 確定

(가) 希望業체

(나) 非工業地域內 業체

(다) 工業地域內 公害業체

<除外業種>

都市型工業으로서 需給上 最少의 適正數

(2) 移転時期의 決定通報

(가) 移転對象地域, 公害度, 耐久年限, 擴張計劃, 運營  
狀況, 輸出狀況 등을 考慮, 年次別로 決定

(나) 移転時期로 부터 最少 2年前에 通報

### 3. 받고 묶어두는 施策 —— 南部地域

4. 誘致地域 및 産業類型의 確定

開發區域 (誘致地域)	産業斗 類型
地方振興 都市圈 大田圈 (裡里, 群山) 金州圈 光州圈 (龜尾, 慶山) 大邱圈 (昌原) 馬山圈	都市型 機械金屬, 其他 輕工業 —— 主要業種別로 選定例示
重化學基地 (臨海立地) 麗川, 浦項, 蔚山, 溫山 新規開發予定地	臨海型 工業 및 關聯工業 (輸出業體 爲主) 石油化學系列 第1次 金屬 非鉄 金屬 其他 關聯工業
其他団地 및 計劃立地 清州, 春川, 原州等	都市型工業 其他 特殊資源 利用型工業

(考慮事項) 産業類型別, 立地需要 立地條件

人口 및 産業斗 收容效果等



7. 既存工団従業員用 住居施設 優先建設

< 77年度 施設需要 推定 >

< 単位: 世帯 >

工団別	独身者宿所	아파트 (A)		联立住宅 (B)	計 (A+B)
		分譲	賃貸		
亀尾	5,000 <sup>名分</sup>	500 (500)	1,300 (500)	600	2,400 (1,000)
昌原		580 (850)	1,150 (200)	980	2,710 (1,050)
麗川		700 (500)	250	900	1,850 (500)
計		1,780 (1,850)	2,700 (700)	2,480	6,960 (2,550)

※ ( ) 内は 在公計画

(1) 亀尾 独身者宿所

— 賃貸 아파트로 代替; 集団入住 (3,000名分既確定)

(2) 家族同伴者 在宅

— 分譲 아파트보다 賃貸 아파트에 重矣

— 入住能力에 따른 正確한 需要 調査와 需要에 따른 建立

※ 企業체가 直接 建立할時, 優先融資 與 敷地 마련등 支援



斗 既存工田內 過多占有 土地등斗 活用

(1) 工業用地 利用 實態調查

— 未分讓, 遊林地, 過多占有

(2) 積極的 活用方案 마련

(가) 適正 立地原單位 設定으로 規制

(나) 遊林地 吳 過多占有 用地斗 活用促求 — 戒告

(다) 不應時 還收

(3) 未分讓 土地는 還收된 用地는 移轉企業에 優先 提供

斗 疎散學生의 收容態勢 具備

(1) 轉學便宜 圖謀

— 定員의 伸縮性 確保

— 轉學節次斗 簡素化

(2) 高校 無試驗 進學制度 適用地域 再檢討

時 地方教育の育成

(1) 奨学金、研究費、実験実習費、海外研修、教育施設  
支援等 拡大

(2) 地方 教授の 政府施策樹立 其 評価參與 社会  
拡大 (考試委員、評価教授等)

時 各種 全國單位 行事 其 会談の 地方開催

時 公務員等の 地方転出時 家族同伴 初奨

—— 緣故地 配置 併行 実施

4. 計劃推進を 위한 準備措置

4. 基金の 設置

4. 税目の 新設 其 既存税制の 改正

4. 金融上の 支援措置

4. 関係法律の 制定 其 改正

#### IV. 部門別 中・長期 計劃

< 關係部處에서 繼續 研究發展시켜야 할 施策 >

—— 製造業 雇傭을 中心으로 한 首都圈 人口의 分

散과 地方의 人口收容 條件造成

—— 移轉對象 施設에 對한 規制 強化와 支援施策을

連結

—— 首都圈內 主要施設의 適正한 再配置 및 特殊

不良 地域의 整備

## 1. 서울産業施設의 移轉

### 가. 移轉對象地의 選定

— 다음 地域의 工業用地를 移轉業체에 優先 提供

- 中小企業 專用園地 (半月)
- 各種誘致地域의 殘余地 및 新規擴張地
- 其他希望地域 (中小都市의 工業地域)

### 나. 移轉跡地의 迅速한 處分支援

#### (1) 一定規模 以上

— 서울시 直接 買入 公園綠地化 등

#### (2) 一定規模 以下

— 住宅公社 買入 低密度宅地 등으로 活用

다. 移轉業체에 對한 差等支援

— 支援의 諸方策 —

[	稅制上의 支援
	補助金 支給
	金融上의 支援

(1) 時限內 移轉業체 對한 支援

(2) 誘致地域內 移轉과 其他地域內 移轉의 差等 支援

다. 移轉促進을 위한 規制強化

— 公營業체 및 各種 不通格 業체에 對한 規制

根拠의 마련

(1) 移轉命令 — 戒告 (督促)

(2) 行政支援 具 各種惠沢의 中断

(3) 營業停止 措置 — 断水, 断電 등

## 2 南部地域 人口收容 興件의 造成

가. 誘致地域別로 關聯工業을 集中 誘致

一 工業用地 新規 需要의 適正配分

(1) 既確定된 誘致地域別 産業類型에 의거 遂別配分  
(工場許可制의 導入)

(2) 人口再配置目標 具 地域別 産業土地의 特性에  
따라 配分規模를 決定

(3) 都市圈內에 工團形態로 開發

- 5大挾夾都市 一 圈에 一定距離를 두고 開發
- 重化學基地—基地 또는 背後都市圈內에 勞動集  
約型 關聯團地로 開發
- 其他地域 一 既存工團을 擴張

(4) 段階別 年次別로 造成 하되 聯團化或은 系列化圖謀

(5) 公害의 防止 與 環境의 最大保全

(6) 農耕地 侵害의 極少化

(6) 農耕地.. 畝의 極少化

4. 誘致地域別 取容与件의 併行 造成

(1) 生活環境施設등의 拡充

(2) 工団의 規模 및 立地性格에 叶한 施設基準을

区分 設定

住宅施設 (住宅地, 從業員住宅地) 民間住宅用地	※ 団地規 模(雇傭 人口)에 都市型 및 非都市型 団地로 区 分設定
教育施設 (從業員訓練, 子女教育)	
医療施設 (病院, 保健所)	
福祉施設 (會館, 運動場)	
通信公安 (郵便, 電話, 警察, 消防)	

(3) 施設의 迅速한 造成을 위한 綜合 調整

(4) 用地 및 施設의 効率的 管理을 위한 現地

管理機能 合理化

都市型工団	地方自治團體에 機能賦与 (人員 및 权限調整)
非都市型工団	統合管理事務所 設置



(2) 工業立地斗 既存都市間 相互機能結合 → 統合型

都市圈으로 漸進的 育成

- 産業道路斗 拡充에 의한 輸送体系 具備
- 大衆交通 手段斗 連結
- 其他原料 具 製品市場斗 連結 誘導

(3) 入居業体에 의한 既存産業育成施策斗 優先適用

- 中小企業型 専門機械工場 選定
- 業種別 専門化 系列化業体指定
- 輸出産業化 支援業体 選定等

(4) 労働市場斗 組織化斗 産業情報 센터斗 拡充

(5) 都市計劃斗 全国的 統一整備

— 都市擴大에 對稱한 都市計劃基準斗 確定

示達

⑤ 都市計划斗 全国的 統一整備

— 都市擴大斗 對稱한 都市計划基本斗 確定

示達

斗 落后地域斗 開發을 通한 人口收容力 強化

① 地域交通網 補充

— 既存 道路斗 擴張 高速化

— 三浦 — 晉州 — 咸陽 — 金州 (230 Km)  
— 大邱 — 居昌 — 南原 — 光州 (232 Km)  
— 順天 — 定城 — 康津 — 木浦 (180 Km)

※ ○ 隔地 産業斗 連結

○ 交通 樞點都市斗 形成 (居昌 咸陽)

② 觀光資源開發

(智異山 伽倻山 等)

— 進入道路斗 鋪裝 및 觀光資源 整備  
— 觀光利用施設 補充 및 特産物 開發

### 3 無許可建物의 整理

가 職業訓練實施 — 勞動方

나 就業斡旋 및 移住定着

— 道知事에게 一定 家口 配分 —

(1) 就業斡旋

(가) 就業分野

- 誘致地域內 新規工場
- 新都市의 各種工事場 都市에서 部門
- 移轉業體의 新 일자리

(나) 內務部에서 서울市 勞動方 關聯業體等과 協議 對策樹立

(다) 政府의 社會開發施策과 連結

(2) 營農定着

(가) 農地提供 (干拓地 用墾地 등 — 長期年賦償還

(나) 營農資金支援

(3) 賃貸의 手段 入住斡旋

### 4 首都圈의 整備

가 都市開發의 整理

(2) 營農定着

(a) 農地課 (干拓地 用經地等 — 長期年賦償還)

(b) 營農資金支援

(3) 賃貸戸斗三 入住國族

#### 4 首都圈斗 整備

斗 都心混雜斗 緩和

(1) 江北 主要施設 具 機能斗 江南移転

〔 鐵道施設 (서울驛, 工作廠, 貨物基地)  
各種車輛斗이난 都心市場

(2) 首都圈 交通体系斗 整備

〔 郊外循環 鐵道斗 建設  
〔 都心交通体系斗 改善

斗 都心地域 再用發斗 漸進的 選別 施行

— 各種 機能移転에 따른 都市構造上 不均衡補完—

斗 江南地區 開發計劃 補完

(1) 生活條件斗 具備

(2) 地価斗 無制限上昇 抑制方案講究 施行

斗 特定地區斗 整備推進

(1) 九老工團 周辺地域

(2) 古物商集合地域: 清溪路一帶

(3) 主要 河川辺: 安養川, 貞陵川, 牛耳川, 弘濟川辺

## 5. 教育制度 改善

가 서울市内 私立大学의 移轉, 合併 및 分校設立支援

㉠ 地方移轉 主上, 合併 希望校에 對한 支援

㉡ 移轉時 增科, 增員等, 行政的 支援

㉢ 適地選定, 固有地拂下, 土地收用特例

教育借款斡旋, 長期低利融資等 財政的 支援

㉣ 地方大学과의 吸收合併誘導

㉤ 跡地의 処分 主上 活用方法을 模索

※ 成大, 明知大, 高大(農, 理工大)는 地方  
移轉을 計劃하고 있음

㉠ 健全한 私立大学의 地方分校設立勸奨

㉡ 對象地: 南部地域 人口收容圈 等

㉢ 支援: 移轉校에 相應한 支援

#### 4. 地方国立大学斗 重点育成

- (1) 財政斗 集中支援을 通한 施設 補强
- (2) 優秀한 教授陣斗 確保
  - (a) 研究費 手当等 集中支援
  - (b) 国立大学教授斗 循環勤務 実施

┌ 一定期間 地方勤務 義務化  
└ 推進委員會 設置

- (3) 奨学金 支給擴大로 優秀學生入學 誘導
- (4) 地域別 特性化 方案斗 強力한 推進

#### 4. 其他地方教育 支援強化

- (1) 誘致地域 地方高校에 施設支援
- (2) 奨学金 支給擴大
- (3) 地方 公共機關 및 企業체斗 職員採用에 있어

地方學校 出身 優待制度化

斗 企業群에 의한 同系 技術教育機關 設立 및 內實化

— 產學協同體制을 擴大 —

(1) 財團 및 企業群의 同系 技術教育機關 育成

(2) 國聯工團에 示範的 技術系學校 設立 誘導

(3) 既存 工業系學校의 引受育成 並에 施設支援

(4) 參與企業(群)은 設立, 運營費負擔, 產業施設의

實習場化, 貸与獎學制度의 補充, 卒業后의 雇傭

保障등의 產學協同 內實化에 寄与

(5) 政府는 稅制上의 支援(損費處理) 및 立地提供

卒業后 一定期間의 服務保障 職業訓練 分担義務

輕減 等 施設 및 財政的 支援



## V. 計劃施行保障을 위한 措置

### 1. 稅制 金融上의 措置

#### 가. 事業所稅의 新設

(既措置 ; 76. 12. 31 地方稅法 改正)

#### 나. 投資稅額 控除制의 擴大

(既措置 ; 76. 12. 22 租稅減免規制法 改正)

#### 다. 移徙準備金制의 新設

(既措置 ; 76. 12. 22 租稅減免規制法 改正)

#### 라. 綜合所得稅의 所得控除制 등 擴大

(1) 家口全員이 地方으로 移住定着時 適用

(2) 控除方法

(가) 綜合所得에서 一定額의 移徙費, 住宅費를

一定期間 所得控除

(4) 移住前 事業用 또는 生計手段으로 提供되던

不動産 譲渡時 一定期間 譲渡所得控除額

引上

。 移住時期에 따라 所得控除額 遮減制 実施

。 移転後 5年内 再転入時 追徴

ㄱ. 地方稅等の 免除

(1) 家口全員이 地方으로 移徙하는 者가 取得

하는 一世帯 一住宅을 對象

(2) 地方移住 定着目的의 住宅 新築時 登録稅 및

取得稅 1回 免除, 財産稅 3年間 免除

(3) 既存住宅取得時 登録税 及 取得税免除

(1回限)

(4) 81年末까지 移転時に 限하여 適用

時 서울 地方間の 税負担 不均衡 是正

(1) 所得標準率 差等制을 全業種에 拡大

(中小都市 引下)

(2) 서울의 營業税 及 遊興税 課税 現實化

(引上)

4. 金融上の支援

(1) 工場移転 促進을 위하여

- ┌ 工場跡地 売却까지의 連繫資金 融資
- └ 工場移転에 따른 運轉資金 融資

—— 制 度 化

(2) 地方産業育成을 위하여

- (가) 各種 政策資金 (中小企業資金, 輸出産業設備資金, 國民投資基金 등) 에 對한 地域圈別 限度의 優先 配定

- (나) 一般資金의 地域圈別 預貸比率의 改善指導

(4) 地方銀行 營業方針의 改善

。本店 ; 地方産業發展에 대한 寄與度에 따라

貸出先 選別

。서울支店 ; 地方還元金融의 強力推進

[一般資金預貸比率 ; 70% 以內에서 運營  
政策資金 : 短期輸出金融에 限定]

。當該地域圈內에서의 店舖網의 優先的 拡充

(3) 地方生活與件의 改善을 위하여

—— 地方所在 空는 移轉業体の 従業員에 대한

家計金融 支援의 強化

家內副業 資金

住宅 資金

學 資 金

}의 優先 取扱

## 2. 基金의 設置運用

### 가. 基金의 種類

#### (1) 産業施設 移轉 基金

基盤施設, 共同利用施設, 厚生施設, 庶民住宅  
建設

移住定着支援, 移轉産業施設에 對한 融資

#### (2) 首都圈 整備基金

—— 搬去民 移住定着支援

### 나. 基金의 財源

#### (1) 政府 및 地方自治團體의 出捐

#### (2) 土地 売却差益 및 各種 負擔金

#### (3) 其他 既存財源의 活用

### 3. 關係法律의 制定 및 改正

#### 가. 産業再配置 促進法 (仮稱)

(1) 移轉 促進地域 및 誘致地域의 選定

(2) 再配置 計劃의 樹立

(가) 誘致地域別 産業類型의 確定

(나) 産業의 地域別 誘導 (工場許可制度)

(3) 移轉促進地域內 各種規制 (移轉命令權 등 根拠 법령)

(4) 産業의 誘致를 위한 條件 造成

(가) 稅制·金融上의 支援

(나) 生活環境施設 등의 振興 (規模別 施設基準 設定  
→ 綜合調整 機能)

(다) 工業立地管理 (立地原單位에 관한 過多占有 등  
規制)

(5) 基金의 設置 — 財源 및 運用方法



#### 4. 首都圈 整備法 (仮稱)

- (1) 工場 新・増設規制
- (2) 建築規制
- (3) 無許可 建築物の撤去 促進
- (4) 各種 衛生業所の 認・許可規制 根拠
- (5) 特定地域 での 施設の 移転 整備
- (6) 命令 違反時の 規制
- (7) 基金の 設置 — 財源 運用方法等

#### 4. 関係法令の 改正検討

- (1) 土地関係 法令
- (2) 建築関係 法令
- (3) 都市計画 関係法令
- (4) 其他 大都市 人口分散 抑制に 関係する 法令

(3) 都市計劃 關係法令

(4) 其他 大都市 人口分散 抑制 關聯法令

## <部處別措置事項>

施 策 別		主管部處	關聯部處
側 面	< 流入抑制 側面 >		
	1. 工場 新・増設 規制	商工部	建設部
	2. 土地利用 規制	市令市	建設部
	3. 建築 規制	"	"
	4. 江北 都心機能 江南誘導	"	保社・文教 交通
	5. 住宅建設事業の 抑制	"	建設部
	6. 教育機関の 拡張 抑制	文教部	"
施 策	7. 地方学生の 市令転入 抑制	"	"
	< 疎散の 側面 >		
	8. 撤去民 現況 把握	市令市	
	9. 無許可 建物 の 使用制限 措置	建設部	市令市
	10. 無許可 建物 の 團束 其 整理	市令市	内務・保社 財務・経企
	11. 工場 の 一斉 登録	"	商工部
	12. 移転対象業体 其 移転 時期の 決定	"	"

施 策 別		主管部處	關聯部處
當 面 施 策	< 內容의 側面 >		
	13 誘致地域 및 產業類型의 確定	商工部	建設部
	14 既存工團從業員用住居施設優先建設	建設·商工	各 道
	15 既存工團內過多占有土地 活用	商工部	"
	16 疎散學生의 收容態勢 具備	文教科	
	17 地方教育의 育成	"	
	18 各種全國行事 및 會議의 地方開催	各部處	
	19 公務員等의 地方転出時家族同伴勸奨	總務處	各部處
	< 施行保障 側面 >		
策	20 基金의 設置運用	經企院	財務部
	21 稅制金融上 支援措置	財務部	經企院 財務
	22 關係法律의 制定 改正	各部處	
中 長 期 施 策	1 시 產業施設의 移転		
	가 移転對象 <sup>商</sup> 地의 選定	建設部	商工 市
	나 移転跡地의 租束等 処分支援	市 電 市	建設部
	다 移転業体に 對한 差等支援	商工部	經企院 財務 市 電 市
	리 移転促進을 위한 規制強化	市 電 市	建設 住宅 利 工

中  
長  
期  
施  
策

2. 南部地域人口 收容與件の  
造成

1. 誘致地域別に 關聯工業を  
集中誘致

商工部 建設部

2. 生活環境施設の 拡充

内務文教  
建設 保社

3. 隣近都市との 技能 結合

建設部 各 道

4. 入住業体に 對し 産業育成  
施策の 優先 適用

商工部

5. 労働市場の 組織化

労働庁 商工部

6. 都市計画の 全國的統一整備

建設部 各 道

7. 落后地域の 開発を 通し  
人口收容力 強化

交通部

3. 無許可建物 の 整理

1. 職業訓練実施

労働庁 市 道

2. 就業斡旋 及 移住定着

内務部 各 道 労働庁

4. 首都圏の 整備

市 道 建設 交通

5. 教育制度の 改善

文教部 経企院 建設  
財務